



銀山(山形)

絵葉書と鳥瞰図で見る日本の温泉

- A4変型・上製函入
- 東日本篇 208頁(カラー24頁)
- 西日本篇 232頁(カラー16頁)
- 全二巻揃定価25,000円

特別限定付録

「絵葉書と鳥瞰図で見る日本の温泉」の予約購読者に、昭和初期の温泉地紹介鳥瞰図を原寸大で複製して配布する。優れた絵師吉田初三郎による立体絵図の魅力を堪能して下さい。



▲勝地群馬 吉田初三郎画 (昭和11年、群馬県勝地協会)



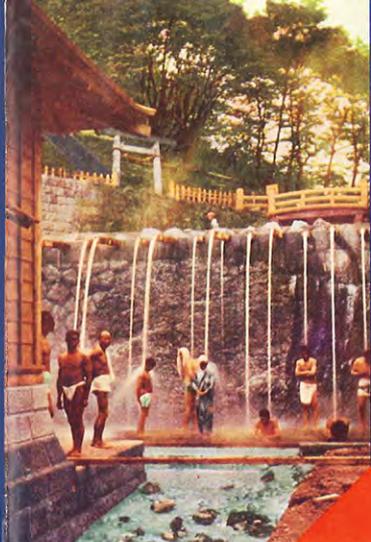
▲観光信州 吉田初三郎画 (昭和10年、長野県観光協会)

北から南まで

本書の特色

- 明治・大正・昭和前期にわたる全国主要温泉地の絵葉書3万枚から、温泉入浴や風俗に特異な様相を伝えるものを中心に厳選し、各地区別に編集した。
- 温泉地を中心に立体的に作画した当時の鳥瞰図を多数収録、温泉地の地勢的把握が容易にできるようにした。
- 温泉地地域郵便局のそれぞれ意匠を凝らした風景入通信日付印から、特に図柄などで温泉地の特色をよく表現しているもの140点を収録した。
- 巻末に日本の温泉の歴史や温泉療法を解りやすくまとめ、さらに絵葉書・鳥瞰図の変遷から見た温泉を概説した。
- 本書は、庶民に親しまれた湯の里の風俗・文化にかかわる貴重な資料を収録したもので、民俗近代史研究に必携の書といえる。

日本の温泉地を全網羅



絵葉書と鳥瞰図で見る

日本の温泉

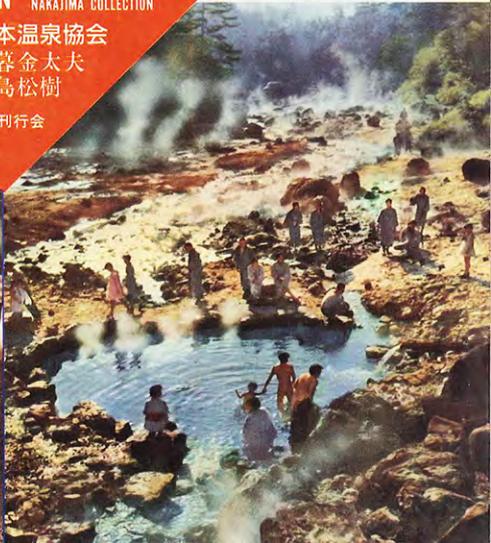
明治・大正・昭和前期

SPAS IN JAPAN 1900—1960 NAKAJIMA COLLECTION

監修——日本温泉協会

編集——木暮金太夫
中島松樹

国書刊行会



発行所

国書刊行会

〒170 東京都豊島区薬町3-5-18
TEL. 03(3917)8287
FAX. 03(3940)2653

※直接ご注文の場合は上記へ

取扱店

編集にあたって

日本温泉協会常務副会長
木暮金太夫



日本の温泉のよき伝統や特色が軽んじられる風潮に、なんとかこれを記録しておきたいと常々考えていたが、折しも本年夏、中島氏の協力を得て「なつかしの温泉展」を日本温泉資料館で開催することができた。本書は、期間中の「これだけで終らせるのはおしい」との熱心な声に応えるべく編集されたものである。編集に際しては、できるだけ各地の温泉を、それぞれの伝統的浴法である瀧湯、蒸湯、砂湯などを通して収録するよう努めた。本書が、見てたのしめると同時に、温泉の変遷を知る貴重な資料となり、今後の温泉のあり方を示唆することを願うものである。



銭ヶ湯の共同湯(青森)

編集のいきさつ

郷土史研究者
中島松樹

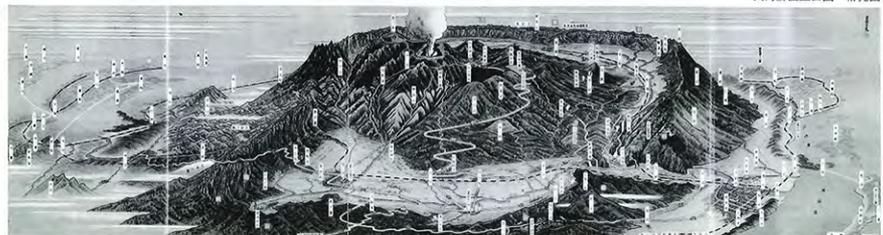


郷土の近代史を、当時の郵便消印やその私信などから実証していこうとする試みを始めて22年にならんとしている。三万枚近くの絵葉書がいつのまにか集まり、鳥瞰図も500点以上になった。いずれもその副産物である。

一昨年、秋頃から痛めた右ひざ治療のため訪れた伊香保温泉「ベルツの湯」で、木暮金太夫先生のお世話になった。美事な日本温泉資料館をご案内いただいたのが機となり、私の絵葉書コレクションから、日本の温泉地関連のものを木暮先生の監修で厳選し、今年の夏「なつかしの温泉展」を開催した。本書はその成果を踏えて編集したものである。



垂玉温泉(熊本)



大阿蘇国立公園 常光西

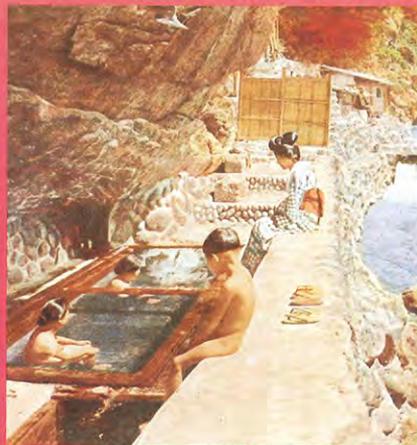
本書を推薦します

温泉のあり方を示唆する

日本温泉協会名誉会長
大島良雄



日本は世界でも恵まれた温泉国である。温泉利用の歴史も古く、動物さえ温泉に浸るくらいである。昔から温泉療養(湯治)と共に休養・保養に温泉を楽しむ習慣があり、家族づれで温泉に出かけることもしばしばだったように思う。薬や外科的療法にのみ頼らず、人に本来備わっている生命力、適応能力を強化して病気の治癒を促し、健康を回復させるという温泉療養が、現在、広く見直されてきている。本書で、明治から昭和までの日本の温泉の実状を伝える多くの絵はがきや鳥瞰図によって、今後の日本の温泉のあり方を示唆することにならんことを期待する。



川岸の露天風呂(川治温泉)



地野温泉橋

夢の町の大博覧会

ドイツ文学者

池内 紀



ここには写真の大パノラマがある。鳥瞰図という古人があみ出した雄大な展望がひらけている。不思議な夢の町の大博覧会だ。湯のなかの人々が凝然とこちらを見ている。静まり返った風景が魂の故里のように思えてくる。温泉のムゼ・イマジネール、空想の博物館が、こんなふうを実現するとは思わなかった。今後、温泉に行けないときは、この本を開いて旅ができる。日本中の温泉をそっくり買ひ占めたくあいである。

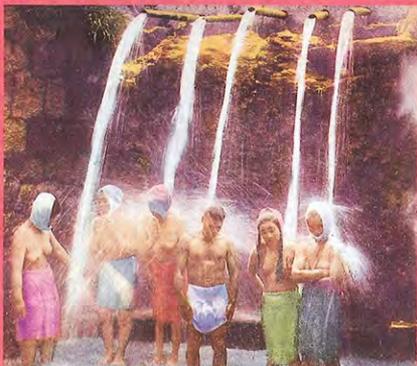
気ままな温泉旅の楽しさ

随筆家

堀 多恵子



もう三十年ほど前になるが、北海道の帰り、青森の浅虫温泉で親友と落合い、東北の旅をしたことがあった。泊った宿の主人に次の泊りの相談をし、自然のゆたかな、ひっそりした温泉を教えて貰い、四、五ヶ所の温泉巡りをした。気持の良い楽しい旅だったことを思い出す。今はこんな子約なしの気ままな旅は困難だろう。日本は世界一の温泉国だそう。温泉の好きな人も多いように思う。静で、人に煩わされない溪流のある山の中、そんな処をさがして行きたいと思う。



湯滝(別所鉄温泉)

